

聞いて！

令和8年度 京都市図書館 読書週間記念事業 司書のイチオシ

わたしの“押しごと”本

自分の好きなものや人を応援する活動、押し活！

「仕事」にかけて「押しごと（押し事）」という言葉も生まれました。

京都市図書館司書42人の押し活事情を本をとおして紹介します！



※「司書のイチオシ」は読書週間の特別企画として、毎年開催しています。

これまでに紹介した本は、京都市図書館ホームページでご覧いただけます。

京都市図書館 司書のイチオシ



（令和8年10月作成）



明定 義人／著
日本図書館協会
(JLA図書館実践シリーズ)
2017年
(分類:014.1)

<本の世界>の見せ方

明定流コレクション形成論

1

「私の推しは **司書のおシゴト** です」

「推し」がない私の推しは「おシゴト（お仕事）」。元上司である著者が、かつて私が働いていた図書館での実践をもとに語る、図書館づくりの舞台裏です。著者が目指す「楽しい貸出」とは？「利用者を否定しない棚」とは？すべてに、計算された「見せ方」の秘密が隠されています。読めば図書館を見る目が変わります一本と人が出会うところ、人と人が出会うところ—
本好きのあなたに贈る、図書館を深堀りした一冊です。

(移動図書館司書)



鍋木 麻矢／著
グラフィック社
2017年
(分類:176.8)

ニッポンのおみくじ

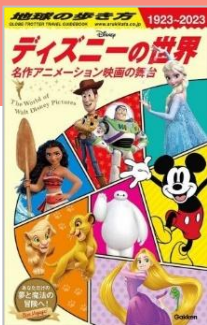
日本全国232種のおみくじを引く

2

「私の推しは **おみくじ** です」

日本各地の定番おみくじから、思わず引いてみたくなるユニークなものまで、232種類を豊富な写真とともに紹介しています。おみくじの歴史や引き方の作法といった豆知識もあり、より深く学べる内容で、眺めるだけでも楽しい一冊です。私のおすすめは、社寺にゆかりのある動物をかたどった愛らしいおみくじです。つい引いてしまい、気づけばコレクションがどんどん増えていきます。

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



©Disney
地球の歩き方編集部／編集
地球の歩き方、2023年
(分類:290.93)

地球の歩き方 ディズニーの世界

名作アニメーション映画の舞台

3

「私の推しは **ディズニーアニメ映画** です」

この本では、2023年までに公開されたディズニーアニメーション映画と、その舞台となった国について紹介されています。アニメに出てくる美しい街並みのもとになった場所の写真や解説が豊富で、ディズニーの世界をよりリアルに感じることができます。本の中で気になった映画のDVDを図書館で借りるうちに、ディズニー作品の面白さに夢中になり、今では新作映画が公開されたら映画館まで見に行ってしまうほどハマっています！

(南図書館司書)



森谷 勉久／監修
京都商工会議所／編
淡交社、2025年
(分類:291.62)

京都・観光文化検定試験

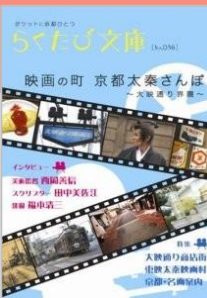
公式テキストブック（新版増補）

4

「私の推しは **京都・観光文化検定試験** です」

京都・観光文化検定試験（京都検定）とは、京都の歴史・文化・観光などの知識を問う検定です。「京都の図書館に勤めているからには、京都についてもっと学びたい！」と思い挑戦し、仕事のための知識だけでなく、京都について話す楽しさも得られました。本書の内容は歴史や文化、料理に言葉と多岐にわたり、写真や図も豊富で読み物としても満足できる1冊です。深く知りたいことが出てきたら、ぜひ図書館に足をお運びください。

(吉祥院図書館司書)



コトコト
(らくたび文庫)
2009年
(分類:291.62)

映画の町 京都太秦さんぽ

大映通り界限

5

「私の推しは **時代劇** です」

私は時代劇が大好きで、よくテレビで見ます。見ていて大覚寺の大沢池が登場すると嬉しいです。高校時代は東映俳優養成所に通い、お化け屋敷で扮装の仕事もしていました。今でも「御用だ！」の提灯を持っている人に憧れます。さて私のイチオシは、時代劇を長年牽引して来た東映と大映通りを紹介した本です。『鬼平犯科帳』に登場する映画村の五鉄の建物、大映通りの大魔神の像などの撮影スポットは必見！

(こどもみらい館子育て図書館司書)



石川 直樹／著
新潮社、2025年
(分類:292.58)

最後の山

「私の推しは **写真家 石川直樹** です」

本著は、写真家の石川直樹が、8000m超の山14座制覇を目指し、その「最後の山」に登頂するまでを描いています。登山界では14座制覇が目新しい目標ではなくっている今、辛い経験をしてまでこだわる意味はなんなのか…。彼の文と写真は、ただそこに立つ山々がもつ、すんとした佇まいに似ています。私は山に登る時、素直に自分のことを好きでいられます。山に登ることは生きること、それを教えてくれた大切な人です。

(北図書館司書)



山内 史子／文
松隈 直樹／写真
小学館、2016年
(分類:293.333)

英国ファンタジーをめぐる ロンドン散歩

7

「私の推しは **ロンドン** です」

多くの名所があるロンドンですが、物語の世界との繋がりがとても深い都市でもあります。私の紹介する本は、ファンタジーの世界を現実のものとして体験できるようなロンドンガイドブックです。私は読後、パディントンの食べていたお菓子として紹介されていた「スティッキー・タフィー・プディング」を実際に食べに行き、その美味しさに感動しました。あなたもこの本でロンドンのファンタジー世界を感じてみませんか？

(中央図書館司書)



深町 純亮／著
海鳥社、1997年
(分類:388.9191)

炭坑節物語

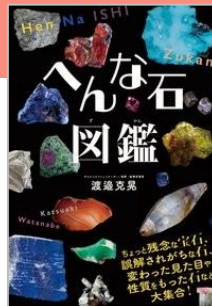
歌いつぐヤマの歴史と人情

8

「私の推しは **炭坑節** です」

ぐるぐる廻るうちに暑さも疲れもなくなって、周囲の人と音と一体となる盆踊りが大好き。「月が出た出た♪」と炭坑節が始まると興奮は絶頂に。炭坑節はメロディも振付けも踊りやすく、夏の夜に合うのよ。明治末に誕生した炭坑節。著者はそのルーツを遡り、ゴットン節など筑豊の人々が生活・労働・恋・喜怒哀楽を生き生きと歌った炭坑労働歌を膨大な数収集し解説。さあ、あなたも炭坑に思いを馳せながら踊りましょ。サノヨイヨイ♪

(東山図書館司書)



渡邊 克晃／著
秀和システム、2024年
(分類:459)

へんな石図鑑

9

「私の推しは **石** です」

高価で煌びやかな宝石や、希少な鉱石。多くは、なかなか手が出ないものばかりです。けれどこの本で紹介されている、地球都合の理不尽や人間の勝手な価値観または勘違いで、美しくも生きづらさを抱えている(かもしれない)石たちの存在を知ってしまったら…。「暗闇の中でしか生きられない」「長年、他人に間違われていた」などなど、思わず“箱推し”してしまうほど石の世界は面白い！

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



小山 慶一郎／著
リベラル社、2024年
(分類:459.7)

小さな宝石の本

10

「私の推しは **光る石** です」

物心ついた時から星やラメなど、光るものが好きで、家にあった鉱物図鑑の影響か、特に宝石への憧れがありました。そんな私が、改めて宝石について知ることが出来た1冊です。この本では、写真やイラストで宝石のビジュアルと、硬さや色の種類などの特徴が載っている他、宝石に関するエピソードなども記載されています。宝石のミニ知識を知ること、あなたの推しの宝石が見つかるかもしれません。

(東山図書館司書)



五十嵐 杏南／著
笠間書院、2022年
(分類:468)

生き物たちよ、なんでそうなった!?

ふしぎな生存戦略の謎を解く

11

「私の推しは **ナマケモノ** です」

私は、ナマケモノという生き物が好きだ。その生態を知れば知るほど好きになる。表情筋のない顔、“怠け者”という不名誉な名前、省エネでエコな生命活動、そのすべてが愛しい。彼らが今日も明日も彼らしく生きていけることを、心から祈っている。この気持ちを「推している」と言えるなら、生き物たちにはみなどこかに「推せる」ポイントがある。この本の生き物の中に、あなたの「推し」も隠れているかもしれない。

(醍醐図書館司書)



大谷 智通／著
目黒寄生虫館／監
佐藤 大介／絵
講談社、2018年
(分類:481.71)

寄生蟲図鑑

ふしぎな世界の住人たち (増補版)

12

「私の推しは **ホタテエラカザリ** です」

寄生虫ほど、様々な能力をもつ生命体はいません。目的のために宿主を操るものまでいます。ホタテエラカザリは、その名の通りホタテのエラを飾っているように見える寄生虫です。きれいな名前に反して、血をすすする残酷さを持つところが魅力です。この本には、サナダムシなどの有名どころのほか、万葉集に詠まれた「思ひ草」のようなロマンチックな寄生植物も紹介されています。白黒の美しいイラストとともにお楽しみください。

(山科図書館司書)



大橋 弘一／著
文一総合出版
(BIRDER SPECIAL)
2026年
(分類:488)

鳥たちの素敵な名前のお話

13

「私の推しは 鳥 です」

最近はいソヒヨドリが増えてきたのか京都市内でも度々鳴き声が聞こえ、私はあの透き通るような囀りが大好きです。羽模様の美しさ、しぐさのかわいらしさなど鳥に癒しを感じる方は多いのではないのでしょうか。鳥の名前には鳴き声に由来するものも多く、ウグイスは昔はホーホケキョではなくウーグイスと鳴いていたとか、シュンシュン鳴くのがスズメでチュパチュパ鳴くのがツバメ、など、語源を調べると面白いことばかりです。

(西京図書館司書)



田島 木綿子／著
山と溪谷社、2021年
(分類:489)

海獣学者、クジラを解剖する。

海の哺乳類の死体が教えてくれること

14

「私の推しは クジラ です」

クジラが好きです。博物館でその骨格の標本を見て以来、クジラの魅力にハマっています。著者の田島さんは、文字どおりクジラのお腹に入り、彼らの声に耳を澄ませます。日本の近海には、実は沢山のクジラが回遊していますが、浅瀬に迷い込んで陸に打ちあがってしまう「ストランディング」が絶えず、その原因はよく分かっていないそうです。哺乳類最大というクジラの解剖の現場から、その不思議な進化や生態を知ることができます。

(こどもみらい館子育て図書館司書)



中江 秀雄／著
雄山閣、2022年
(分類:559.14)

日本の大砲とその歴史

15

「私の推しは 大砲 です」

武器といえば鉄砲や刀をイメージしがちですが、積極的に西洋の軍事技術を導入した幕末においては、むしろ“大砲”が主力武器でした。学生時代に幕末の軍制を研究する中で本書に出会い、大砲に魅了されました。私のお気に入りには臼砲（モルチール砲）で、砲身が短く丸いフォルムの愛らしい見た目ながら城壁を破壊するほどの威力があり、そのギャップがイチ推しです。さあ、あなたも日本のカッコいい大砲の歴史を辿ってみませんか？

(南図書館司書)



山崎 功／著
主婦の友インフォス(主婦の友社)、2019年
(分類:589.77)

任天堂コンプリートガイド コンピューターゲーム編

16

「私の推しは 任天堂のゲーム です」

子供の頃、初めて祖母に買ってもらったゲームが「ポケットモンスター 金・銀」でした。妹と一個ずつ遊び、通信プレイでポケモンを交換したり、対戦したり。そこからゲームの世界にどハマリして、一人で遊ぶだけでなく、家族と、学校の友達と、ネットの向こう側のひとと、今でも世代を越えていろんなひとと一緒に遊んでいます。この本は、昔遊んだゲームがたくさん載っていて、懐かしさと共に遊んだときの思い出もよみがえります。

(右京中央図書館司書)



Emi／著
大和書房、2023年
(分類:590)

暮らす働く、もっと明るいほうへ。 OURHOME

17

「私の推しは ちょうどいい です」

収納ブログをされていた頃から応援しており、先日は新刊の出版イベントに参加しました。多数出版されている中で、私の推し本がこちら！「思い込みの枠をはずしてみる」「～しておいた方がいいをやめてみる」など、日常を素直に生きるヒントがたくさん！そして自分にとっての“ちょうどいい”は、変わっていくものだ。小さな違和感を見逃さずに、新たな一歩につなげようと思える1冊です。

(向島図書館司書)



こどものとも編集部／編
福音館書店、2026年
(分類:596)

こどものとものでづくりブック

絵本からうまれた料理と工作レシピ

18

「私の推しは 「こどものとも」 です」

幼稚園から毎月持ち帰っていた月刊絵本「こどものとも」。母に読んでもらうのが大好きで、大人になった今読んでもさまざまなイメージがわいてきます。本書には、そんな「こどものとも」に登場する食べ物やキャラクターをモチーフとした、料理や工作のレシピが紹介されています。『ぐりとぐらとくるりくら』のサンドイッチ、『ぞうくんのさんぽ』のダンボールつみきなど、絵本の世界を形にするアイデアがいっぱいでワクワクします。

(醍醐中央図書館司書)

多肉植物サボテン

19



山城 智洋／著
NHK出版(NHK趣味の園芸 12
か月栽培ナビNEO)
2021年
(分類:627.78)

「私の推しは **サボテン** です」

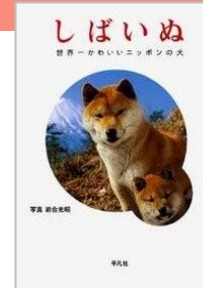
サボテンを育て始めたものの、どのくらい水をあげればよいのか分からず元気がなくなってしまうことがあります。そんなときに出会ったのがこの本です。種類ごとの特徴や季節に合わせた育て方が分かりやすく紹介されており、育てる楽しさを知ることができます。ゆっくり成長し花を咲かせる姿を見ると、これからも大切に育てたいと思います。あなたも是非サボテンを育ててみませんか。

(中央図書館司書)

しばいぬ

世界一かわいいニッポンの犬

20



岩合 光昭／写真
平凡社、2011年
(分類:645.6)

「私の推しは **柴犬** です」

柴犬の魅力は、やっぱりマロ眉が特徴的な愛嬌のある顔、そしてしぐさ！！今までに4匹柴犬を飼ったことがあります、それぞれ個性的な性格でどの仔も愛おしかったです。柴犬をモチーフにしたグッズも大好きで、お財布や小物類、ハンカチなどいろいろ集めています。この本は、春夏秋冬の柴犬が魅力あふれるポーズで撮られています。見ていると笑顔になれる一冊です。あなたも柴犬の沼にハマってみませんか？

(久我のもり図書館司書)

猫の日本史

みんな猫が好きだった

21



渋谷 申博／著
出版芸術社
(出版芸術ライブラリー)
2022年
(分類:645.7)

「私の推しは **大昔から愛され続ける猫** です」

推しは、私たちにいろいろなものを与えてくれる存在です。その中で、一番大きなものは「癒し」ではないでしょうか。身近にいて癒しを与えてくれる存在といえば…？「猫！」と思った人におすすめしたいのが、この一冊！猫と日本人はいつから一緒に暮らしてきたのか、日本人がどれだけ猫好きなのかがわかります。さらに「猫好きのための寺社ガイド」もついていて、これを見たら猫ゆかりの場所に出かけたくなるかも？

(下京図書館司書)

鳥のお医者さんの ためになるつぶやき集

22



海老沢 和荘／著
グラフィック社
2021年
(分類:646.8)

「私の推しは **ジュウシマツ** です」

人にとって非常に身近な存在である鳥ですが、いざ一緒に暮らすとなると何をどうすればいいのかはあまり知られていません。その可愛さにお迎えしてみたものの、飼い方を細かく調べようとすると信頼性の高い情報が中々集まらず、困ることもしばしば。この本は、そんな不安を大きく解消してくれる一助となります。実際に幾度となく助けられました。おかげ様で、いまでも我が家は鳥と仲良く暮らしてQOLが爆上がりしています。

(洛西図書館司書)

京都を包む紙

23



井上 由季子／著
村松 美賀子／著
アノニマ・スタジオ
2007年
(分類:675.18)

「私の推しは **紙** です」

紙が好きで、お気に入りの紙をつい集めてしまいます。京都にはすてきなお菓子がたくさんありますが、その包み紙にまで注目したことはありませんか。お菓子はもちろんですが、包まれている紙もとても美しく、こだわりがつまっています。本を開くと、きれいな包み紙がたくさん紹介されていて、お菓子を手に取る瞬間から楽しみが増える気がします。包み紙だけでなく、掛けられているひもや葉も丁寧に扱いたくなる一冊です。

(北図書館司書)

風景印ミュージアム

直径36ミリのの中日本

24



古沢 保／著
G.B.
2021年
(分類:693.8)

「私の推しは **押し** です」

駅や観光地の記念スタンプ、御朱印など、押したり押してもらったりするものを集めるのに喜びを感じる質で、特に今推しの押しは風景印です。全国の郵便局の半分弱の局でもらえる消印で、名所や特産物、著名人などを盛り込んだ図案は約1万1千種類。もらい方も、ハガキ料金以上の切手を用意して、窓口でお願いするだけで、とっても簡単。この切手にこの印！のマッチングが決まった時、もうめちゃくちゃニヤニヤしてしまいます。

(西京図書館司書)



三戸 信恵／著
山種美術館／特別協力
エクスナレッジ、2018年
(分類:721)

色から読み解く日本画

25

「私の推しは **その色** です」

日本画の絵の具は天然の鉱物を粉末にしたもので、色によっては非常に高価であり、大学時代の私はほぼ絵の具のためにバイトをしていた。だがその一色、一色は本当に魅力的である。この本はその絵の持つ印象的な色を赤、青、黄、緑、金銀、白、黒に分け、作品を解説したもののだが、同じ色でも作品ごとに全く違う印象を放っている。それは作者の「思い」であり、その「思い」は圧巻の作品となる。機会があれば、ぜひ実物も見たい。

(左京図書館司書)



上村 松園／[画]
平野 重光／監修
青幻舎、2009年
(分類:721.9)

上村松園画集

26

「私の推しは **松園さんの美人画** です」

画集を開いたきっかけは、宮尾登美子の小説『序の舞』。松園さんの描く美人の、清楚で凛とした佇まいに魅了されました。風に捲かれた着物の裾模様、高島田の簪、手に持った扇の柄、そして生気の宿る眼差し。細部まで描き込まれた美しさと気高さから伺える、描き手の心の在り様。松園画の髪形や、印章についての考察も興味深い画集です。ぜひ《焰》の凄みに圧倒され、《鼓の音》の躍動感に心躍らせてください。

(伏見中央図書館司書)



荒木 飛呂彦／著
集英社(集英社新書)
2024年
(分類:726.107)

荒木飛呂彦の新・漫画術 悪役の作り方

27

「私の推しは **ジョジョの奇妙な冒険** です」

『ジョジョの奇妙な冒険』は、1987年に『週刊少年ジャンプ』にて連載が始まり、現在はシリーズ第9作目が『ウルトラジャンプ』にて連載中です。絆、勇気、諦めない心……たくさんをジョジョから学びました。本書では、漫画家を志す人に向けてキャラクターや物語の作り方を細かく解説しています。ジョジョが好きの方はもちろん、学校や仕事、趣味などで創作活動に取り組んでいる方にも是非読んでほしい1冊です。

(吉祥院図書館司書)



せな けいこ／作・絵
文藝春秋、2016年
(分類:726.601)

ねないこはわたし

28

「私の推しは **絵本作家のせなけいこさん** です」

子どもの頃何度も読んでもらった絵本『ねないこだれだ』。大人から「寝ない子はおばけの世界に連れていかれてしまうよ」と言われ、お昼寝をする時や夜になると、怖くなってすぐ布団に入っていました。でも、作者のせなけいこさんは、子どもたちのしつけのためにこの絵本を描いた訳ではないようです。では、その真意とは？他にも絵本を制作している時の気持ちや、子どもたちに対するせなさんの思いなどが綴られています。

(下京図書館司書)



國本 学史／監修
ナツメ社、2023年
(分類:757.3)

色を表すことばの辞典

29

「私の推しは **「青」色** です」

「推し」と言われて思い浮かぶのは好きなキャラ、応援している人、心がときめく物。私の中でそれらに近いのは、子どもの頃からつい目に入ってしまう色、青色です。一口に青色と言っても空の青から海の青まであるように、色には沢山の種類があります。中でも私が一番好きなのは「吸い込まれそうなほど深い青」で、本書で「瑠璃色(るりいろ)」という名前だと知りました。この本であなたの大好きなあの色の名前を見つけてみませんか。

(久我のもり図書館司書)



長沼 由美／著 二藤 宏美／著
ヤマハミュージックエンタテイン
メントホールディングス
(ヤマハミュージックメディア)
2009年
(分類:763)

大人の楽器入門

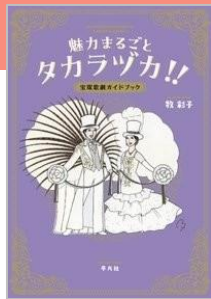
読んでわかる!きいてわかる!楽器の歴史と名曲

30

「私の推しは **楽器演奏** です」

楽器を始めてみませんか？私は楽器演奏がきっかけで、生涯の仲間達と巡り合えました。「興味はあるけれどどんな楽器があるの？」と思われた方にこの一冊をお勧めします。小鳥のさえずりのような音色のフルート、カタツムリのような丸い形とあたたかい音色が特徴のホルンなど、各楽器の魅力が紹介されている入門書。CD付でどんな音が出るのかも確認できます。上達すると自信がつき、自分が自分の「推し」になれます！

(移動図書館司書)



牧 彩子／著
平凡社、2025年
(分類:775.4)

魅力まるごとタカラヅカ!!

宝塚歌劇ガイドブック

31

「私の推しは **輝きあふれる宝塚歌劇** です」

男性の私でも夢中になる世界。劇場に一步足を踏み入れれば、そこには夢の空間が広がっています。歌やダンス、お芝居、どこを切り取っても圧巻のステージ。それぞれの衣装からも目が離せません。オーケストラによる演奏にも魅了されます。豊富な写真とコメントで彩られている公演パンフレットは、観劇の思い出の記録に。気づけば自室の本棚にたくさん並んでいます。宝塚がお好きな方にも、詳しくない方にもおすすめの一冊です。

(岩倉図書館司書)



高村 光太郎／著
新潮社(新潮文庫)
2003年
(分類:911.56)

智恵子抄 (改版)

33

「私の推しは **智恵さん** です」

自宅の本棚に並ぶたくさんの本の中から、中学生だった私が適当に手に取ったのが、この本。当時の私にとって、高村光太郎と言えば「教科書に載ってる人」くらいの印象で、知っているのは教科書に載っていた詩だけ。読み進めてみれば、そこにあふれる妻・智恵子へのこれでもかという愛。こんなに愛されていた智恵子さんって、どんなに素敵なお人だったんだろう、と詩の中の智恵子に憧れた。今でも折に触れては手に取る一冊である。

(伏見中央図書館司書)



夢枕 獺／著、文藝春秋
('陰陽師' シリーズ)
1988年
(分類:913.6)

陰陽師

35

「私の推しは **京の都を駆ける友情** です」

陰陽師・安倍晴明と貴公子・源博雅が不可思議な事件に立ち向かう本シリーズにおいて、晴明と博雅のやり取りは大きな魅力であると思う。私は特に晴明の屋敷で二人が語らう場面が好きだ。これから事件解決へ乗り出すとは思えぬ和やかな雰囲気。しかし、この場面があってこそ話に緩急がつき、クライマックスが盛り上がる（と勝手に思っている）。飄々とした晴明と振り回され気味の博雅、ふたりの息の合った(?)活躍をぜひその目で。

(久世ふれあいセンター図書館司書)



石川 祐希／著
徳間書店、2025年
(分類:783.2)

頂を目指して ジュニア版

32

「私の推しは **バレーボール** です」

誰よりも高く飛び、ボールを地面に落とさず繋ぐ球技バレー。学生のころは部活動で熱中し、大人になった今ではテレビで白熱した試合を応援しています。

本書は男子バレー日本代表のキャプテンを務める石川祐希さんのバレーに出会ってから世界と戦うまでの歩みを綴った自叙伝です。現在、男子バレーは高い攻撃力と粘り強い組織力で歴代最強と呼ばれています。その強さの秘訣がわかる一冊です。

(久世ふれあいセンター図書館司書)



東野 圭吾／著
集英社(集英社文庫)
2002年
(分類:913.6)

白夜行

34

「私の推しは **フィギュアスケート** です」

二人の男女の運命が複雑に絡んでゆく19年間の紡いだ本書は1999年に出版され2005年にテレビドラマ化されます。ドラマの劇伴曲「白夜を行く」を使用し、フィギュアのエキジビションプログラムに落とし込んだのがフィギュアスケーターであった町田樹さんです！およそ6分間で作り込まれたプログラムは本書の主人公・亮司の心情や葛藤を見事に描いています。小説・ドラマ・スケート…どれをとっても引き込まれる作品です。

(山科図書館司書)



森見 登美彦／著
幻冬舎、2007年
(分類:913.6)

有頂天家族

36

「私の推しは **京都に潜む狸たち** です」

森見登美彦さんの作品でとびきり好きな一冊です。読後には下鴨神社など、作中の舞台を巡りました。京都を歩きながら「もしかして、あの狸たちがいるかも？」と思わせてくれる世界観と、かわいい狸たちが推しのポイントです。

人間に化けるのが得意な狸とその家族を中心に、人間や天狗たちが京都を舞台に縦横無尽に駆け回ります。奇想天外でコミカルな物語でありながら、ときおり寂しさや切なさを感じさせるところも魅力です。

(向島図書館司書)



最果 タヒ／著
リトルモア、2020年
(分類:914.6)

「好き」の因数分解

37

「私の推しは **最果タヒ** です」

最果タヒを読むと感極まる。タヒの48の「好きなもの」とその理由が書き集められた本書を開くと、「好きなもの」を見つけるためにこの人生に生まれてきたことを思い出す。「好き」の感情を書かせたらタヒ以上の人はいない。タヒがタヒの「好きなもの」に近づく時、私は私の「好きなもの」に近づく。「好きなもの」こそが私の輪郭を描き出していることに気づく。タヒを読んで、あなたもあなたの「好きなもの」に近づいてほしい。

(左京図書館司書)



平凡社編集部／編
平凡社、2025年
(分類:914.68)

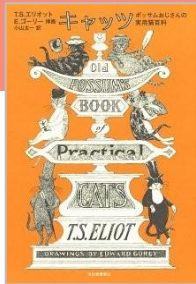
作家とおやつ

38

「私の推しは **スイーツ巡り** です」

学生時代、友人に連れられて行った街中の洋菓子店。その時食べた木苺のケーキが美味しくて、洋菓子の世界に魅了されました。お菓子作りが趣味になり、道具を集めレシピを集め、ケーキ屋さんでアルバイト。今も神戸や大阪まで足を運び、スイーツ三昧の日々を楽しんでいます。本書は、お菓子のあま〜い香りと作家達の思い出が詰まった一冊。何気ない日常にある出合いが、思いがけず人生を彩ることを教えてくれる本です。

(醍醐中央図書館司書)



T.S.エリオット／著
E.ゴースリー／挿画
小山 太一／訳
河出書房新社、2015年
(分類:931.7)

キャッツ

ポッサムおじさんの実用猫百科

39

「私の推しは **歌って踊る猫** です」

初めてミュージカルに魅了されたのが、劇団四季の“キャッツ”でした。生演奏に合わせた歌とダンス、華やかな舞台は圧巻です。その後、“オペラ座の怪人”、“エリザベート”などミュージカル沼にはまるきっかけとなりました。原作の詩集があるのは後から知ったのですが、リズムカルな短い文章で、ミュージカルに登場する猫たちを紹介しています。エドワード・ゴースリーの描く憎めない猫のイラストも楽しめる一冊です。

(右京中央図書館司書)



エラリー・クイーン／著
中村 有希／訳
東京創元社(創元推理文庫)
2020年
(分類:933.7)

エラリー・クイーンの新冒険

40

「私の推しは **東京創元社** です」

ミステリー・SFを主軸にリリースしている老舗出版社。格調高さと素朴さが併存する装丁や、読みやすくもクラシックな風合いを留める翻訳は、幼いころに背伸びして「大人の本」を読んだときの感覚を変わず呼び起こしてくれます。古典名作などを定期的に復刊してくれるのも嬉しいところ。短編ロジックミステリーの面白さが詰まった名作『エラリー・クイーンの新冒険』、新訳してくれてありがとう！

(醍醐図書館司書)



M・デュラス／〔著〕
清水 徹／訳
河出書房新社(河出文庫)
1992年
(分類:953.7)

愛人(ラマン)

41

「私の推しは **愛憎に塗れた、一人の少女** です」

初めて読んだ時、歴史の授業で出会った“華僑”という存在が、生身の人間として鮮烈に浮かび上がったことを覚えています。それと同時に、これほどまでに激烈な恋情を、果たして自分は抱きうるのか、と途方もない気持ちになりました。後には戻れないという絶望感、喪失感、焦燥感に襲われる、無二の傑作です。マルグリット・デュラス自身の体験を基に書かれたともいわれており、当事者ならではの表現も魅力です。

(洛西図書館司書)



エリーザ・ブリチェッリ・グエッラ／作
長野 徹／訳
岩波書店(STAMP BOOKS)
2020年
(分類:973)

紙の心

42

「私の推しは **チャオ！イタリア！** です」

イタリアのラップミュージックにはまって以来、私はいろんな「イタリア」が気になって仕方ありません。この『紙の心』はイタリアのティーン向けに書かれた物語。10代の少年と少女が図書館の本を介して文通を始めるところから話は始まります。イタリアのお国柄か、手紙は甘い言葉でいっぱい。しかし読み進めていくうちに、二人のある特殊な事情が明らかになっていき…。ページをめくる手が止まらないイタリア発の恋愛冒険小説です！

(岩倉図書館司書)